



みなみ

発行日 令和6年5月21日



アメニモマケズ、カゼニモマケズ

わが子にかける思いは、誰もが強く温かい

早いもので、間もなく6月を迎えようとしています。お天気の移り変わりが激しいことで体温を一定に保つのが難しくなり、体調を整えるのが難しい季節ですが、皆様どうぞ自愛ください。

5月13日からの1週間、民生委員・児童委員の皆様が、登下校の見守り活動をしてくださいました。初日は、あいにくの雨でしたが、地域の子どものためにと、それぞれの地域に立ったり登校班に付き添ったりしてくださいました。たいへんお世話になり、ありがとうございました。

今回は、以前よりスクールガードの方々からもご指摘いただいていることを話題とします。

ある雨の日のことです。登校時刻になると、班長さんを先頭に、きちんと並んだ子どもたちのかわいい傘の1列が、学校の通用門に向かって進んでいきます。この日は風も強く、斜めに降る雨粒に濡れながら、子どもたちはぐっところえた表情で歩んでいきます。こんな子どもたちの姿を見つめながら、「おはよう。よくがんばって来たね。」と声をかけると、「うん。」と頷く子どもあれば、「おはようございます。」と元気にあいさつを返してくれる子もいます。

たった1日の一コマの出来事ではありますが、こうした毎日の少しずつの積み重ねが、子どもたちの心に刻み込まれ、しんどいことや辛いことに出会っても、辛抱して自分で乗り越えようとする原動力になっていくのだろうと、びしょびしょになった子どもたちの逞しい姿に気づかされます。

こうした子どもたちの傘の行列が、学校近くでは100人ほどの大行列となります。そのすぐ脇を、送迎の乗用車が何台も行き交い、自転車に登校する高校生を巻き込んで大渋滞を起こすことが時々あります。

勿論、正当な理由があってやむなく車での登校となっているお子さんもあります。また、理由があっても家の玄関で「いってらっしゃい」と送り出している方、近くの信号まで見送っていただいている方、子どもたちと一緒に歩いて登校していただいている方など様々です。ただ、多くの車のために、ずぶ濡れになりながら横断歩道で車の往來を待つ子どもの姿には、やるせなさを感じずにはいられません。時には、「危ないから、もっと端に寄りなさい!」と大声で指示しないといけないこともあります。雨の日の車での送迎については、ぜひともご一考いただければと思います。

さて、他の場面でもそうですが、子育てには、愛情のある優しさや厳しさのバランスがとても大切です。今は親が手を出すときか、どこまで本人に任せるべきか、判断に迷うことがよくあります。支えてあげないと心が折れてしまうことがあるかもしれません。しかし、大人が手や口を出し過ぎると、本人のやる気を失わせるばかりでなく、将来に渡って、困難に立ち向かおうとする力を奪ってしまうことにもなりかねません。逆に、子どもに任せてみて、わが子が乗り越えていく姿に、逞しさを感じて嬉しくなる場面もあります。子育ては、本当に難しいものです。しかし、「子育て」に一生懸命向かい合うことは、実は、親として自分が成長していく「親育ち」でもあるのです。困ったときには、身近な子育ての先輩方にもアドバイスをいただきながら、自身の子どもや地域の子どもへの良好な関わり方をともに学んでいきたいものです。

文責：吉田

